

神國

のふり

地

天竺より支那も竟^さ不^ふへ天理自然の平に降^{くだ}るべしと
道^{みち}にわ^りて。莊^{しやう}老^{らう}ありて。局^{くう}儒^{にう}をく^くる。祖^そ師^し釋^{しやく}出^{しゅつ}て文
字^{ぶんじ}の法^{ほふ}を他^たるる人^{ひと}智^ち障^{しやう}を弊^{へい}のこ^こう道^{みち}にう^うる。ぬ
がゆ^が人^{ひと}ち^ちり^り。智^ちあると^とり^りく^くぬ^ぬま^まま^まの^の。ゆ^ゆて盲^{もう}木^き板^{ばん}を^をあ^あへ
聲^{こゑ}に^に管^{かん}と^と月^{げつ}ゆ^ゆい^い。當^{たう}核^{かく}益^{えき}物^{ぶつ}と^と。杖^{しやう}て^てみ^みい^いま^まハ^ハな^なに^に
管^{かん}て^てみ^みい^いま^まハ^ハな^なに^に。ぬ^ぬ者^{もの}核^{かく}救^{きう}方^{ほう}便^{べん}なり^{なり}。極^{ごく}惡^{あく}ハ^ハ他^たの^の
方^{ほう}便^{べん}なり^{なり}と^と強^{かう}説^{せつ}と^と唱^{なう}め^め。名^なを^をの^のど^どく^くなり^{なり}る^る人^{ひと}。
盲^{もう}乃^の杖^{しやう}聲^{こゑ}の^の愛^{あい}なり^{なり}。帝^{てい}の人^{ひと}よ^よハ^ハ用^{よう}ひ^ひて^て善^{ぜん}なり^{なり}と^と
なり^{なり}。礼^{れい}也^{なり}。極^{ごく}惡^{あく}ハ^ハ愚^ぐと^とま^まふ^ふい^いる^る人^{ひと}教^{きやう}に^に治^ち國^{こく}平^{へい}天^{てん}
下^かの^の今^{いま}ハ^ハ時^{とき}なり^{なり}。用^{よう}ひ^ひる^る人^{ひと}、熾^し後^ごの^のり^り冬^{ふゆ}の^の業^{ぎふ}なり^{なり}と^と云^いふ^ふ也^{なり}。

け悉上人日蓮上人の内證の徳行を推ふ
 う活業を和乃比伴に譲る。南都の僧
 徒は儀へりしかん王侯の崇敬にや。公卿の
 威は榮て邪神を捨て神璽と振舞をぬいて
 神本と執りいさうの衆會にも甲冑を著り
 うの歩行も無社ともいへて我執狂慢都て佛
 制はあつて貪欲強嗔あつて和風といへば
 い俗世とてゆかに播ちく佛はさあぐ魔滅と
 唯徹因明のふの。一實因にもあつては卑
 俗凡下の男女は恥は難く難く細くして迷果因

みみ。教盜せりといふ。故に易行易修の淨業
 を弘めては教よつてあり。佛縁としむるありて
 いふ惡俗の徒は我が我慢とて人あふ。衆生愚
 のれめて法道の身操をもち。是れをえりて
 て癡智於學の行作とす。是時我お惡
 かり。然るふ又其易行の事。祖玄のつとを
 らも唯は教力にまゐりて。大空因長乃けを毀
 壞。中家の教を蔑して傍は墮落の親を
 本とて造悪と惡す。文永弘安の比。京鎌倉の
 俗俗。至慚至愧の形狀目もあつて。是れを

かゝるもの言曰く、此の世に生れぬもの、地獄に下り
先達うははし、あつたに生れ、成佛し、またあつ
はるもの、とちう事なり。あつたに生れ、あつたの安ん
乃ちてよ、いかに生れ、生れ、あつたに別、とて、悟り、あつ
生れ、生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
とて、生れ、生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
たり。千万人、一人、とて、生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
た、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
地獄、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
た、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
た、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ

念仏無間の
あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
う、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
い、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
陰陽不測の事、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
たり。日月乃玉、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
た、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
間、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
別、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
陽、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
と、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ
と、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつたに生れ、あつ

われへあつた。一柱を性として本来おろかりたい
性うへに又命を性へよりあつてあつてと。
るは格てあ人の不惑よりて規矩へよりと。
ことと憐れ欲のよりとやうに我のひつとぬやうに色
みやとそれぬやうに貧乏とさうぬやうにのち海流焼
けり。少くも我れ欲もあつてさうさうはわつと。
道程よりその苦よりとやうにさういふの欲の
まが罪法よりその人へ向く國のいふやう
中ふあをつまて子共を賺しつゝ。さうさういふ
いと。欲より一日りさうされど。我れやあつた人曰

金づけをさうと合点さうに佛でも神でも人でも
ち。火と水と一日もあつていふやうに世の助され。機
をへ清さうに。はあへ切やうと。さればと根
う火のさうに。水のさうに。いふと。欲と
色も我れ人間の體よつて用乃おあり。それと
あれい道にさうさう。それい力をさうと。縁と果と
根とさうと。さうよの教へるさうさう。その能く
といふさう人へ。知れぬ人へ。あつてさうさうの也
それゆへにさういふゆへに。教へる。教へる。事と
國の宮社は社僧を老へ形容と立まつて。あつた

不淨犯罪を以て清潔の人をてる容を殊
やめい。勅告懲戒我神徳よりあらうて。日の幸乃
神社の如き事をんとす。それより神を
まはる。一向にまはる。是非をい。す。ふ。大己貴
事代主素盞雄。橘田彦。宇奈之神。と女神の神
祇。然るてあり。是。理。當。公。地。主。我。の。神。と
あ。る。悉。神。像。と。あ。邪。あ。へ。奪。れ。び。玉。神。の。祭。司
を。彼。伊。と。盗。め。れ。我。國。の。主。と。彼。國。の。主。と。す。け
乃。能。と。年。唯。一。家。保。乃。わ。わ。利。物。乃。神。祇。と。ま
て。忠。信。元。下。と。扱。り。て。日。志。の。事。あ。い。日。を。り

日本の玉化。降。下。の。て。て。玉。是。玉。我。の。幣。帛。あ
い。後。い。あ。大。神。多。乃。玉。化。玉。卵。也。や。ま。へ。今。の。玉
く。乃。社。と。な。て。知。り。た。く。な。て。い。又。田。島。乃。耕
人。の。中。に。下。一。せ。る。人。あ。邪。と。あ。い。い。儒。の。の。の
と。い。ま。れ。も。玉。邪。根。性。と。あ。い。ゆ。人。天。主。れ。夜。尿
を。い。や。る。玉。邪。の。夜。糞。より。て。益。く。我。國。神。を。穢
ま。邪。と。我。天。主。降。く。我。必。神。乃。玉。像。と。ま。何
の。様。あ。ん。八。百。萬。社。ハ。廟。多。り。廟。ハ。貌。多。り。と。く。取
り。能。く。考。へ。下
神。前。の。天。狗。を。獅子。れ。る。森。太。の。い。さ。乃。片。轍。の。ま。き

あて水徳なり又月乃神

四常立
大中立

月讀ハ人神形化出生

諸冊の表紙の人神とてまゝ
何の名なり

日神よりハ

陽中陽也

月神よりハ

陽中陰也

陽の名 氣地なり

月讀ハ

陰中陰

日讀ハ

陰中陽

陰の名 形化なり

ハ陰數の極

八柱ハ四方四隅より八八六十四季徳地ニ帰
陽數九八八十一天一の水ニ帰

我國神乃變化純陽純陰はわに偏陰偏陽は
わに陽の動極なり陰乃静なり氣生し陰の静

かり極は陽乃動出で陽中の陰陰中の陽は通

て神出圓出たり太陽乃火徳の内宮乃天照太

神ハ女神乃日の天子外宮太陰乃水徳の神ハ

男神乃月々天子なり陰陽降昇一水と火と合

て氣和自育單に火單の水に起て物生せん火の

中の水ハ火中の火と相生水の中乃火ハ火の中

乃水と相生事不測の妙なり是神と秘く乃

手地なり

天皇の地祇親音が日本乃現世も世経焼あり

百万遍乃念佛が平養乃行禱も婚嫁の調を

ねて弘法振師も祖振へ塩麴の夏書の遊女夢
ふり猶被へて縁の客を求ふ事。猶也忘相と佛
のさういふ現世乃猶福もねて利益はあつる。
とれい現世も佛は。本末も弘法と強固なれい。日々
乃神の受念にあらざる事。早くある事へまご成
し。さう結を利あるさう。まごにまごし。まごし。
大屋と親まるま所へさう結て佛屋に居るま。まけま。
家ま一の神とて佛のお供は。精を飯の付技。お
ぐ。あさう。げ。神く乃。青子い何と。ま。あ。さ。げ。神の
氏子い。ね。か。さ。や。我。骨。肉。筋。脈。と。ま。あ。さ。う。乃。胞

の神と。秋神の下にきて。先祖の神へ飢渴なるい
余。余の神と。ならさる。余。い。う。い。く。ま。さ。さ。さ。さ。さ。
去。後。よ。その。ま。に。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。
と。と。神。の。神。と。佛。と。血。脈。の。理。の。相。違。を。い。う。と。因
と。と。唯。佛。の。神。と。佛。と。を。形。容。と。て。血。脈。相
と。と。其。い。字。門。の。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。
と。と。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。
と。と。一。器。乃。水。と。頂。と。灌。の。密。事。と。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。
と。と。佛。授。と。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。

ちるれも信の中にも厭離穢土乃念ふつゝ。一心不
 乱の行業わづは乃のみ身を捨る事により其修力
 の磨多くとて彼灌頂血脈乃部数つゝ中には脈
 を略してさけよする事く。あつと通世の阿毘陀婆
 う五腕と六腕と目と鼻と貫く中の血脈を百
 目二百目のれ今にて屠法の十数形賊卑信の業
 人もさけけり。それいけるが佛さへてまけしと
 せぬと念ふでるなり。日本の人乃血脈の實体の血
 脈を。氏神土着の同業同胞のゆゑ迷ふまれば。は
 血脈乃さういふとて。彼血脈は終らと喰ひ捨るは

都六部が
あり

日本ハ神代ノ系圖と第一ナルて天孫ノ神代を立
 て先祖の勲とちりぐも。その勲といふは血脈なり。代々
 を傳へて家お績もる。代々親族といふは親類とて。その代々
 傳へてといふ。士ハ士とて世々と應。若王國ハ代々お績
 もる。いふは。去によりて氏神をあり土產の穀
 とて。一ニするも。今の世ハ成。揚善ていふは。善い
 ことあり。今親族といふは。睦。睦也。睦をいふは。親多
 くと。是ハ親也。いふは。人の上より。居ゆ。系圖氏姓をい
 ふは。多し。いふは。多し。是れ也。いふは。國の基。本とて。立

始より去程は祖神氏神を唱ふいしで利欲うらま
る儲通て上人は来るのし是輩る系累のさうとや
らそ。只も邪風乃使智をさる。必風をこのひもの也。
る神ゆへ一をちり本とむとする神訓に法牙にむと
らうかり。士へむを吾道に守り。今と義路のめれ。
先祖の神乃面張清り子孫の肩張つるするまねへ。
その名柄と青紙ののる。一度へ無て金と何く
朽れへ。先祖の神種とじまりのへとこそで光あへ
は。是士乃一とする属かり
農人し程耐転はゆを久と。水は保り。旱の依て公

を農事れ一とされい祖神の光るせし子孫お後と
工人へ今も彫物よはる。量師よ。物中も谷川大工。米屋。
金銀屋。家名つる。先祖工神の妙よとちの意也。
高ハ四民の下にゆく。若の作あでる五穀工人織婦乃兼
細をん分。上中下のふ紙定て。も是を働と交易乃
損利をん也。を必れ土産と物よ。也。一。米の土産成
田舎へむと働る。るは張る。と世人の用を也。する也。
され。朝夕秤の恒重に重をを考へ。算盤乃工まみ
細米と積て出入の帳の卜括かり。けし換量とけしれ
さ。かり。市能かり。高乃祖神乃一とされい家のお後と

足尾くちり

士農工商ともに祀神職神の節目らうと節目式
守りて富まよめていそぐにそ共職分をつらみ
かるも職分といれども已に士工商と知て成り
く奉立一分立ちたり。職分のかうそい藝能とて一分
のさういふ物あり一公定準とい日本娘の制は外
乃雜言を止よりへそ又藝能のさそ是神刻と守
て世にけりあをきんとさう天皇の事いふ那乃
事し耳へ入るなり

御神躰奉仕記の神柱乃秘授大神主太玉司

素王正統宣の教相承の秘授凡人の老角推系と係
事いわれ。又濃うぬりていさるにわれ。其外の
社稷はふ乃二官。郡縣字儀の勅請乃具社と一社
くの社傳は隨役の社職家。秘とそ社傳は長
其成甲俗凡下に白地と知てて八位をさほしわご
くろと成へるハ神爵おさう。我云所ハ表向よそ
迹降降乃神像と立て。愚法幼婦の的は如法利
益の教ふしうへり。家廟社稷乃社名と知。産神
氏神ハ社名といふ。神神ハ思れて神領
社名ハ荒すといふ。我土地の神は訓親く

外は是神をうゝむとて。うけたり日本をなめて我
國をさし重くおのろく神化よりびくへてなり。假し
日本神をたす神宮乃々途々て神像とて。それより
是神氏神と形容す。我家くに教あり。うんと教ふ
是唯一家源のそなりて。雨室童子の形よりわかれ
私神像と形容するにわかれ。性より三種の神器を
宗廟より高回り魚。天の岩戸の形容を。神織殿とて
へ。寒暑の清衣と織出。神馬とて。神事の能く
備へたり。是悉皆立神の形よりわかれ。殿内は候人の
外と禁とふるべし。吾色ありて有色。有り形ありて吾形の

神秘を。凡人は漏るるもの。延喜式より十五日に外宮の
神像と遷十六日に内宮神像を遷るる。陰陽出沒
一瞬より易変現妙術。率ふてあり。その例は
して不測なり。神徳なり。思へ一向に。是より人乃
教ふ。さうされ。他のさは。けし。彼經才詞章
乃々邪物識。世智饒舌の文。空學者。新室滅相の
城より入。至誠感格乃格より。ら。出。玄の妙用。は。無作
の作。る。依。却て。法。情。と。さ。る。学。弊。智。障。乃。道。を。そ
こ。ち。を。さ。る。を。然。る。と。さ。る。な。も。同。一。筆。と。つ。め。や。と。理
知。を。か。り。て。神。の。榮。氏。人。神。は。厚。く。ん。へ。う。積。り。て

道佛道へのふく乃民は教ふる玉風化なり。其の
天地一貫の道理をおもふふいわけ。其の善の善の
の中別といふる處をわらふより。金排くも道
今の世の事。儒者も佛者も名のふり。利のふり
とる人。儒といひ佛といひ。泥。彼ふのふり。如
程ふ。必乃道と程ふ。如て破る。如て破る。
日本の事。理相の神神神化とわらふ。其の事。天竺
の道者。大神ま乃直。託宣。如て破る。如て破る。
畏なり。神垣。近づく。其の事。日本の神化とわ
らふ。其の事。如て破る。其の事。天竺乃

はと。一ふ。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其
如て理。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其
海月。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其
破。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其
独。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其
高。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其
日本。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其
支那。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其
其。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其
其。其の事。天竺。其の事。日本の神乃道。其

